

財政健全化計画等執行状況報告書

1. 基本的事項

団 体 名	七飯町	会 計 名	水道事業会計	団 体 担 当 者	庶務係(青山)
承 認 年 度	平成19年度				

2. 判定結果

項目	計画最終年度(又は改善額合計)			計画前年度実績(又は補償金免除額)		類型
	目標値	実績見込値	乖離値	実績値	乖離値	
地方債現在高						
実質公債費比率						
職員数	11.0	10.0	1.0	11.0	1.0	a
改善額	106.0	124.0	18.0	20.0	104.0	b
公営企業債現在高	2,665.0	2,513.0	152.0	2,021.0	492.0	b
累積欠損金比率	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	a
総 合 判 定						b

3. その他

() 計画及び前年度執行状況の公表状況

計 画：平成20年3月 公表 (HP・広報紙・その他 [])

執行状況：平成22年8月 公表 (HP) 広報紙・その他 [])

() 計画及び前年度執行状況の議会への説明

計 画：平成20年3月 平成20年第1回定例会 説明

執行状況：平成22年9月 平成21年度決算審査特別委員会(予定) 説明

() 平成22年度提出予定の旧資金運用部資金の補償金免除繰上償還に係る財政健全化計画等

- 財政健全化計画
- 公営企業経営健全化計画
- 水道事業()
 - 工業用水道事業
 - 都市高速鉄道事業
 - 下水道事業()
 - 病院事業
 - 介護サービス事業
- 提出予定なし

()実績(見込)値が計画目標値に届かない理由及びやむを得ない事情についての検討事項

()改善に向けた取組及び今後の見通し

()改善方針の進捗状況

()実績(見込)値が計画目標値に届かない理由及びやむを得ない事情についての検討事項

平成21年度実績(見込)値(B)

- ・改善額として、従前より既存設備に対する計画的な修繕を実施しており、更新時期の延長化により「建設費の抑制」を図るとしていたが、平成9年度に設置した大中山管理棟滅菌ポンプ(平成21年度更新時期)が不調となった。
- ・滅菌ポンプは水道原水に塩素を入れる機械であり故障してしまうと、ライフラインの維持が出来なくなるため、やむを得ず更新工事を実施した。
【平成21年度建設費抑制額(計画)31,480千円 設備の不調により更新、その結果、24,280千円の建設費の抑制にとどまる。】

()改善に向けた取組及び今後の見通し

- ・計画最終年度の改善額計画目標値を達成するため、水道事業会計職員数を11名で計画しているところ、計画期間を通して9~10名体制(欠員1~2名)で水道事業を運営している。今後においても業務改善を図りながら、現行体制での運営を進めていくところである。
- ・上記記載のとおり、建設費の抑制については、当初計画よりも改善額が少なくなる見通しではあるものの、人件費において大幅な改善が図られることから、改善額としては、計画最終年度には計画達成出来る見通し。

()改善方針の進捗状況

団体名	七飯町
会計名	水道事業会計

公営企業債現在高

類型	b
----	---

() 推移表

(単位:百万円)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	計画最終年度 (平成23年度)	計画前年度 (平成18年度)
計画目標値(A)	2,249	2,353	2,391	2,537	2,665	2,021
実績(見込)値(B)	2,230	2,440	2,529	2,527	2,513	
乖離値(C) (A - B)	19	87	138	10	152	492
乖離率(D) (C / A)	0.8%	-3.7%	-5.8%	0.4%	5.7%	-24.3%

() 要因分析

計画最終年度における 未達成の要因	影響額(単位:百万円)					備考	やむを得ない 事情
	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度		
合計	-	-	-	-	-		

()実績(見込)値が計画目標値に届かない理由及びやむを得ない事情についての検討事項

平成20年度から平成21年度迄の間、実績(見込)値(B)が計画目標値に届かない理由として、

道路改良に伴う企業債の増(平成20年度・21年度発行額分)

- 一般国道5号線及び道道大沼公園鹿部線の道路改良工事に伴い支障となる水道管移設工事は、継続事業であり、協議(国及び北海道)はされていたが、経営健全化計画作成時には事業概要が示されていなかったため、事業費が把握できず計画には搭載していない事業であった。平成20年度・21年度工事施工により、道路改良に伴う水道管移設工事(ライフラインの維持)の企業債が増加した。
《平成20年度 26,900千円、平成21年度 18,100千円 合計 45,000千円》
- 効率的な事業を推進するため町道整備に合わせて施工する計画の本町老朽管布設替工事が、急遽平成20年度から道路改良工事を実施することとなったため、支障となる水道管の布設替工事を実施した。《平成20年度 18,100千円》

老朽管に伴う企業債の増(平成20年度・21年度発行額分)

- 大沼簡易水道の老朽管は、組合水道時代の水道管をそのまま引き継いでおり(昭和50年度に引継ぎ。耐用年数25年のPP管)、平成19年度で本管布設替工事を終える予定であったが、細部に圧力がかかり漏水箇所が多発し、修繕しては又別の箇所に圧力がかかり漏水するという悪循環が生じたため、平成20年度・21年度に老朽管布設替工事(ライフラインの維持)を施工することになった。
《平成20年度 13,600千円、平成21年度 6,900千円 合計 20,500千円》

新幹線車両基地水需要に伴う企業債増(平成20年度・21年度発行額分)

- 新幹線車両基地整備事業については、平成17年度に北海道新幹線の事業認可がされたものの、車両基地周辺の具体的な事業が判然としていなかったため計画に計上していなかった。今般、事業内容が決定したため、新幹線車両基地周辺の道路整備や河川改修橋梁架替工事に伴い支障となる水道管移設工事、新幹線車両基地の水需要に対応するための水源開発(ボーリング調査、取水ポンプ、電気設備等)、水道管口径変更などの企業債が増加した。
《平成20年度 35,200千円、平成21年度 57,300千円 合計 92,500千円》

その他(未給水地域への水道供給)

- 組合水道を使用している地域から水質の悪化により町水道への切り替えの要望があり、未給水地域へ安全な水道水を供給するため、急遽、平成20年度に新規事業で取り組まざるを得なかった。《平成20年度 8,900千円》

()改善に向けた取組及び今後の見通し

計画最終年度の企業債現在高計画目標値を達成するため、平成22年度から予定している七飯上水道第2次増補改良事業の事業着手を見直し、後年度への計画変更又は事業費抑制等により、平成22年度、23年度の企業債発行額の抑制を行う。

- 平成22年度企業債発行予定額(計画) 214百万円 見直し後 70百万円(144百万円の抑制)
- 平成23年度企業債発行予定額(計画) 209百万円 見直し後 70百万円(139百万円の抑制)

()改善方針の進捗状況

平成20年度改善方針の進捗について

引続き、電気計装及び機器設備の計画的な点検を実施している。

入札制度については、平成20年度から指名競争入札で執行する入札の一部を一般競争入札(地域限定型)へ順次移行し、入札制度の改善を図っている。

平成22年度から予定している七飯上水道第2次増補改良事業については、上記記載のとおり適宜見直しを実施している。

団体名	七飯町
会計名	水道事業会計

累積欠損金比率

類型	a
----	---

()推移表

(単位: %)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	計画最終年度 (平成23年度)	計画前年度 (平成18年度)
計画目標値(A)	-	-	-	-	-	-
実績(見込)値(B)	-	-	-	-	-	-
乖離値(C) (A - B)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
乖離率(D) (C / A)	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

()要因分析

(単位: 百万円、%)

	計画最終年度(平成23年度)		再算定値
	計画目標値(A)	実績見込値(B)	
分母(営業収益等)			
分子(累積欠損金)			
累積欠損金比率			

分母悪化要因

(単位: 百万円)

要因	影響額(百万円)	備考	やむを得ない
合計	-		

分子悪化要因

(単位: 百万円)

年度	純損益		乖離値(A-B)	乖離要因	やむを得ない事情
	計画目標値(A)	実績見込値(B)			
平成19年度					
平成20年度					
平成21年度					
平成22年度					
平成23年度					
合計			-		

()実績(見込)値が計画目標値に届かない理由及びやむを得ない事情についての検討事項

()改善に向けた取組及び今後の見通し

()改善方針の進捗状況